

2027

お菓子の広告キャラクター

Character for Confection's Advertising

AD 32 真鍋 ふゆみ
指導教員 井上 謙

1.研究目的

私は幼い頃からお菓子を買うのが大好きだった。それは只お菓子を食べたかった訳ではなく、お菓子のパッケージに描かれたキャラクターや、おまけの玩具を手に入れるのが楽しみであったからである。

様々な製菓製品と共に、その製品を彩らせるために多くのマスコットのキャラクターが生み出され、お菓子の代名詞的存在になった例もある。

本卒業研究では、今までに製菓会社独自に創案され人々に好まれてきたキャラクターを研究し、新たなお菓子の広告キャラクターのデザインを提案する事を目的とする。

2.調査と分析

現在市販されている製菓製品を調査

取り上げた商品のキャラクター：全138種

- ・「コアラのマーチ」のコアラのマーチ君等の動物系。「カール」のカールおじさん等の人間系。「チョコボール」のキョロちゃん等のお菓子自体がキャラクターになった擬生物系の主に三つの系統に分けられた。
- ・特にチョコ製品等甘味系のキャラクターは動物系が多く、丸みを帯びた形で可愛い系又は癒し系なデザインである。色はブライト系やパール系で明るい色調、直立タイプで一頭身～二頭身半程の大きさで凡そ幼少児から小学校低学年の子供が対象となっている。
- ・どの企業も各々の商品にキャラクターを加えているが、様々な設定（種類・性格・仲間・物語）がされている。

3.コンセプトの立案

子供心を忘れない、手に取りたくなるようなお菓子。

- ・既存の商品のキャラクター及びパッケージデザインを変更。
- ・二十代前後の社会人女性をターゲット。

4.デザイン展開

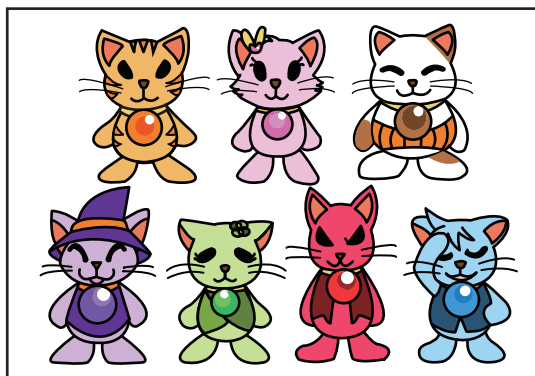
既存商品の中から明治製菓の「マーブルチョコレート」を選択。

- ・既存の七色のうち黄色を紫色に変更し、橙桃

茶青赤紫緑を基本色にしたキャラクターを考案。当初は基本色は単色ずつにする予定だったが、茶色は場合によっては汚い色になってしまうので白と茶の二色にした。それぞれに名前、性格、関係をつけ個性をつけた。主なキャラクターの他にもサブキャラクターを考えたが、メインキャラクターとの関連性が旨くつかず断念した。

・パッケージは筒型ではなく箱型に変更した。外側の色調は水彩風又は色鉛筆風にし、内側にキャラクターを記載した。

5.完成図



6.結論

アンケート調査で作った作品を検証した。

キャラクターについては「各キャラクターの表情が豊かで良い」、「マーブルチョコらしい色使いで解りやすい」といった反面「チョコというイメージではない」、「モデルを特定の動物にしないほうがよいのでは」という意見を得た。

パッケージについては「カラフルで形が可愛い」等の商品のイメージ的なデザインでは良い意見を得たが、「実際に店頭で売るのは違和感がある」、「商品的なデザインとしては成り立っていない」という意見があった。

7.参考文献

- ・明治製菓ホームページ
<http://www.meiji.co.jp/>
- ・森永製菓ホームページ
<http://www.morinaga.co.jp/index.html>
- ・LOTTEホームページ
<http://www.lotte.co.jp/top.html>